

令和3年
火災・救急・救助概要

宝塚市消防本部

目 次

I 火災の概要

1	火災の発生状況	1
2	火災覚知種別の状況	4
3	火災の覚知から現場到着までの所要時間	4
4	初期消火状況	5
5	署所別火災発生状況	5
6	月別・時間別火災発生状況	6
7	出火原因	7
8	火災発生件数の推移	8
9	その他の出動状況	8
10	防災出動状況	9

II 救急の概要

1	救急事故種別出動状況	10
2	傷病程度別搬送状況	11
3	署所別出動状況	12
4	医療機関別搬送状況	13
5	年齢区分別搬送状況	14
6	月別・曜日別出動状況	15
7	救急出動件数の推移	16

III 救助の概要

1	救助事故種別出動状況	17
2	発生場所別活動件数・救助人員状況	18
3	建物内生存者確認による出動状況	19

I 火災の概要

1 火災の発生状況

(1) 火災件数

令和3年中の火災の発生状況は表-1・2・3のとおりで、総件数は26件発生し、前年と比べ1件減少しています。

火災種別ごとでは、建物火災は17件で前年と比べ3件増加、林野火災は1件で前年と比べ1件増加、車両火災は2件で前年と比べ2件減少、その他の火災は6件で前年と比べ3件減少しています。

(2) 焼損棟数・面積等

焼損棟数は、19棟で前年と比べ2棟減少しています。全焼棟数は2棟で前年と比べ1棟減少、半焼棟数は1棟で前年と比べ1棟増加、部分焼棟数は5棟で前年と比べ5棟減少、ぼや棟数は11棟で前年と比べ3棟増加しています。

焼損面積等については、建物焼損面積は231平方メートルで前年と比べ198平方メートル減少、建物焼損表面積は57平方メートルで前年と比べ63平方メートル減少しています。

林野火災は6aで前年と比べ6a増加しています。車両火災の焼損台数は2台で前年と比べ1台減少しています。

(3) 死傷者

令和3年中は死者が1名で前年と同数、負傷者が8名で前年と同数です。

表-1

【火災種別件数】

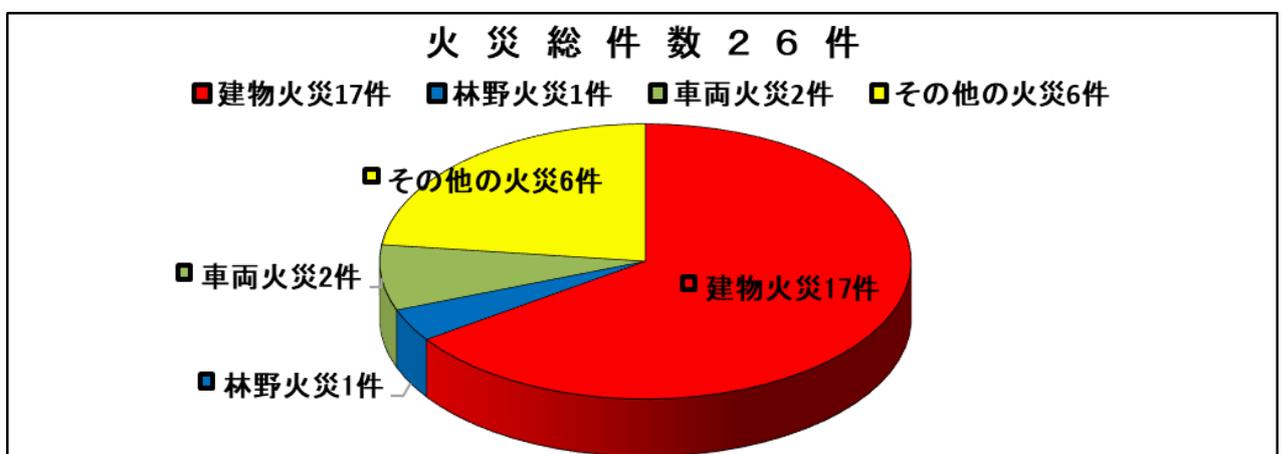


表-2

【前年との対比1】

区 分		単 位	令 和 3 年 (A)	令 和 2 年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
出 火 件 数			26	27	△ 1
火 災 種 別	建 物	件	17	14	3
	林 野		1	0	1
	車 両		2	4	△ 2
	そ の 他		6	9	△ 3
焼 損 棟 数	合 計	棟	19	21	△ 2
	全 焼		2	3	△ 1
	半 焼		1	0	1
	部 分 焼		5	10	△ 5
	ぼ や		11	8	3
爆 発 損 害 棟 数			0	0	0
焼 損 面 積	建 物	m ²	231	429	△ 198
	建 物 表 面 積	m ²	57	120	△ 63
	林 野	a	6	0	6
	車 両	台	2	3	△ 1
り 災 世 帯 数	合 計	世 帯	22	30	△ 8
	全 損		5	7	△ 2
	半 損		1	1	0
	小 損		16	22	△ 6
り 災 人 員		人	58	70	△ 12

※ 令和3年数値は概算値を含んでおり、確定値ではありません。

※ △は減少を示す。

表－3

【前年との対比2】

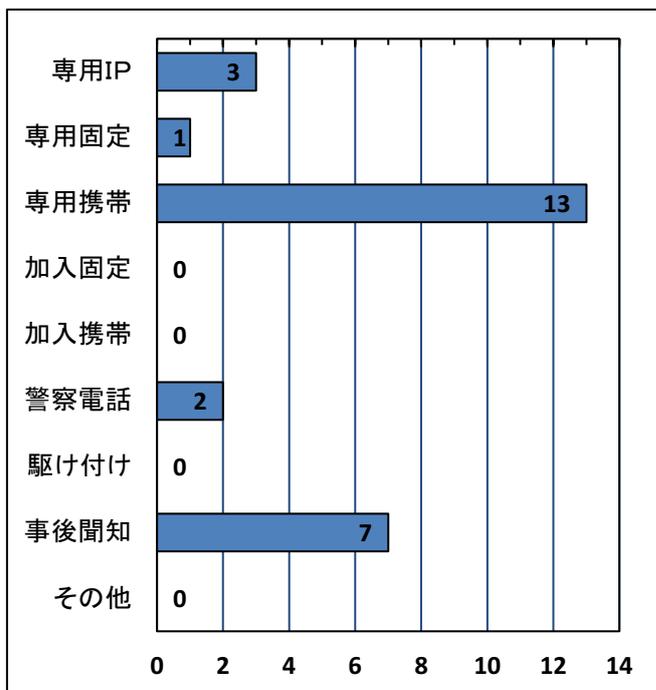
区 分		単 位	令 和 3 年 (A)	令 和 2 年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
死 者			1	1	0
負 傷 者	30日死者	人	0	1	△1
	重 症		1	0	1
	中 等 症		4	2	2
	軽 症		3	5	△2
出 動 車 両	合 計	台	208	203	5
	消 防 署		166	181	△15
	消 防 団		42	22	20
出 動 人 員	合 計	人	905	785	120
	消 防 署		598	630	△32
	消 防 団		307	155	152
建 物 火 災 一 件 当 たり	建 物 焼 損 面 積	m ²	13.6	30.6	△17.0
	焼 損 棟 数	棟	1.1	1.5	△0.4
	り 災 世 帯	世帯	1.3	2.1	△0.8
	り 災 人 員	人	3.4	4.7	△1.3
林 野 火 災 一 件 当 たり	焼 損 面 積	a	6.0	0.0	6.0
出 火 率		件	1.2	1.2	0

- ※ 火災により負傷した後48時間以内に死亡したものは火災による死者として扱う。
負傷者のうち「30日死者」とは、火災によって負傷した者が、負傷後48時間を経過して30日以内に死亡した者をいう。
- ※ 出火率は人口1万人当たりの出火件数をいう。
出火率（件）＝出火件数÷人口×10,000
- ※ 令和3年数値は概算値を含んでおり、確定値ではありません。
- ※ △は減少を示す。

2 火災覚知種別の状況

令和3年中に火災を覚知する種別で最も多かったのは、携帯電話からの119番通報で13件でした。

表-4 【火災覚知種別状況】



- ・専用IP⇒固定電話（NTT加入電話を除く）からの119番通報
- ・専用固定⇒固定電話（NTT加入電話）からの119番通報
- ・専用携帯⇒携帯電話からの119番通報
- ・加入固定⇒固定電話からの消防本部固定局への通報
- ・加入携帯⇒携帯電話からの消防本部固定局への通報
- ・警察電話⇒警察専用回線からの通報
- ・駆け付け⇒消防機関へ電話以外の方法で直接通報
- ・事後聞知⇒火災が消えた後に通報
- ・その他⇒上記以外の通報

3 火災の覚知から現場到着までの所要時間

令和3年中に発生した26件の火災から、事後聞知の火災7件を除いた19件の火災について、119番通報を受信してから、出動、現場到着までに要した時間の平均値は下表のとおりです。

表-5 【所要時間の平均値】

区分	覚知～出動	出動～現着	覚知～現着
全市域	0分37秒	4分41秒	5分18秒

※ 覚知とは、消防機関が火災等の災害を認知すること。

4 初期消火状況

令和3年中に発生した26件の火災のうち、初期消火が行われたのは20件で、そのうち初期消火に成功した件数は14件でした。

表－6 【初期消火の実施件数】

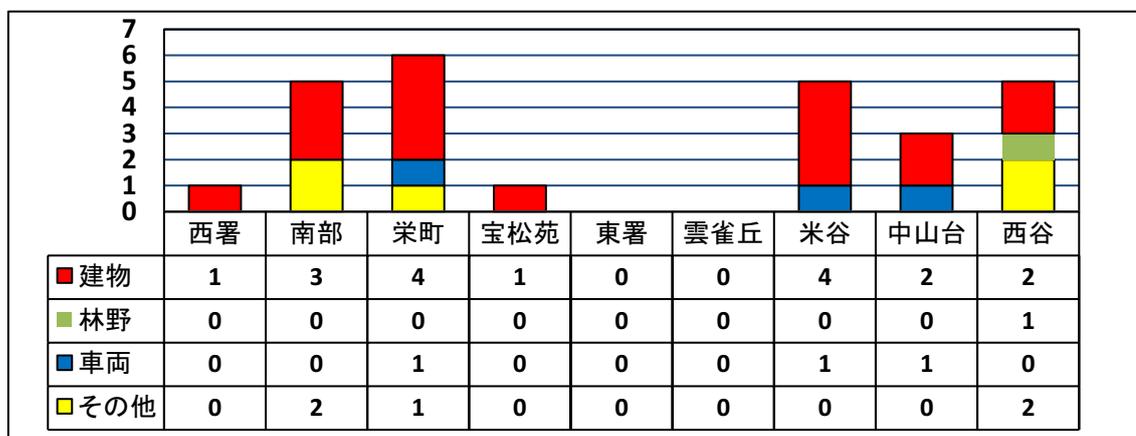
初期消火実施件数 消火種別	合 計	建 物	林 野	車 両	そ の 他
	【20件】	【12件】	【1件】	【1件】	【6件】
水 パ ケ ッ					
強 化 液 消 火 器					
粉 末 消 火 器	7 (5)	5 (4)		1 (1)	1 (0)
水道、浴槽、汲み置き等の 水をかけた	8 (6)	5 (3)			3 (3)
寝具、衣類等をかけた	1 (1)	1 (1)			
も み 消 し た	1 (0)				1 (0)
そ の 他	3 (2)	1 (1)	1 (0)		1 (1)
合 計	20 (14)	12 (9)	1 (0)	1 (1)	6 (4)

※ () 内の数字は初期消火に成功した件数を示す。

5 署所別火災発生状況

各署所の管轄、受持地区内で発生した火災件数は表－7のとおりで、栄町が最も多く6件発生しています。

表－7 【署所別火災発生件数】



6 月別・時間別火災発生状況

月別の火災発生状況は、4月及び6月に5件と最も多く発生しています。

時間別で見ると、9時から12時の時間帯に10件と最も多く発生しています。

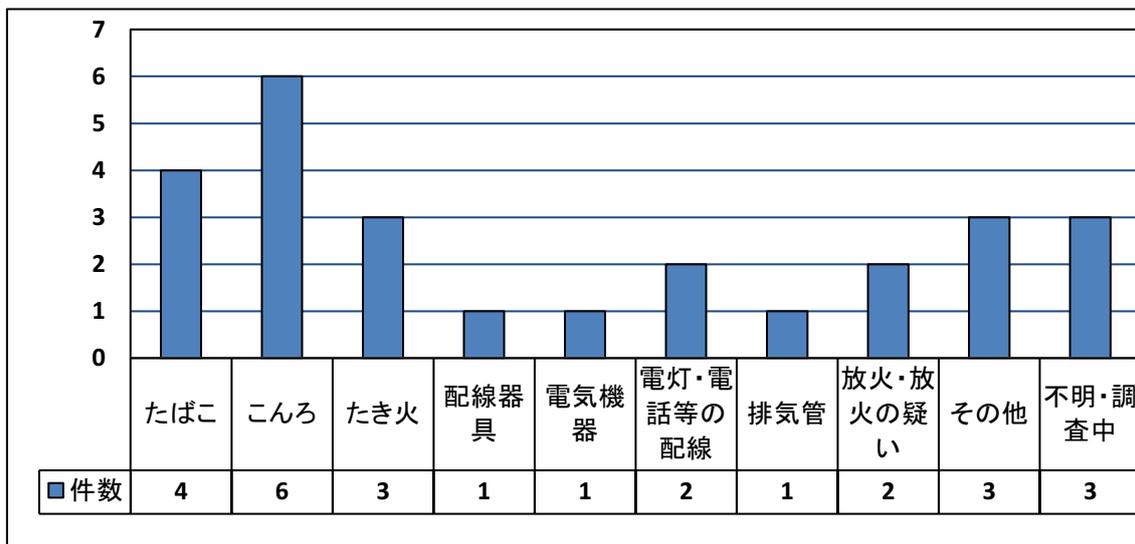
表－8 【月別・時間別火災発生件数】

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
建物	2	1		3	2	3	1		1	3	1		17	
林野			1										1	
車両				1							1		2	
その他				1		2	2			1			6	
計	2	1	1	5	2	5	3	0	1	4	2	0	26	
0～1													0	1
1～2													0	
2～3										1			1	
3～4													0	0
4～5													0	
5～6													0	
6～7				1						1			2	4
7～8										1			1	
8～9				1									1	
9～10									1				1	10
10～11					1	1	1				1		4	
11～12			1	1		2					1		5	
12～13						1				1			2	7
13～14		1				1	1						3	
14～15	1						1						2	
15～16													0	1
16～17													0	
17～18					1								1	
18～19													0	2
19～20				1									1	
20～21				1									1	
21～22	1												1	1
22～23													0	
23～24													0	
不明													0	

7 出火原因

出火原因別では、こんろが6件、次いでたばこが4件となっています。

表－9 【出火原因別火災件数】



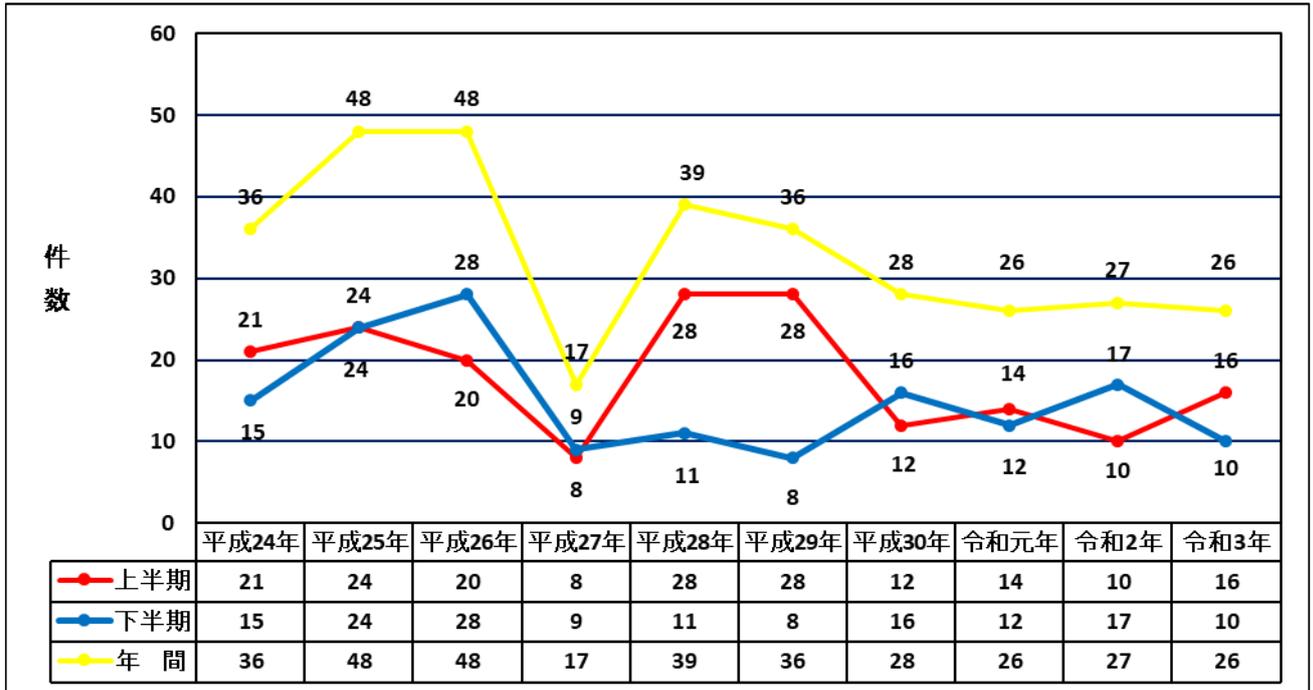
表－10 【火災種別毎の出火原因件数】

出火原因	合計	建物火災	林野火災	車両火災	その他の火災
たばこ	4	1		1	2
こんろ	6	6			
たき火	3	1	1		1
配線器具	1	1			
電気機器	1	1			
電灯・電話等の配線	2	2			
排気管	1			1	
放火・放火の疑い	2	2			
その他	3	1			2
不明・調査中	3	2			1
合計	26	17	1	2	6

8 火災発生件数の推移（過去10年間）

過去10年間の発生の推移をみると、年間件数平均値は33.1件となっており、平成27年は過去最少となる17件を記録しました。

表－11 【火災発生件数の推移（過去10年間）】



9 その他の出動状況

火災以外の災害等の出動状況は、表－12のとおり917件（前年808件）出動し、これは1日に約2.5件の割合で出動したことになります。

表－12 【その他の災害出動件数】

区分	合計	火災に	誤報	警戒	油流出	ガ	ス	特	自火報	他	捜	索	その他
		至らず	誤認			漏	洩	定		市			
出動件数	917	11	49	205	21	5	470	96	43	5	12		
出動台数	1325	40	395	215	21	5	477	100	54	5	13		
出動人員	5168	150	1458	852	84	20	1910	406	214	20	54		

※ 特定救急は、救急現場に消防車も同時出動することをいう。

10 防災出動状況

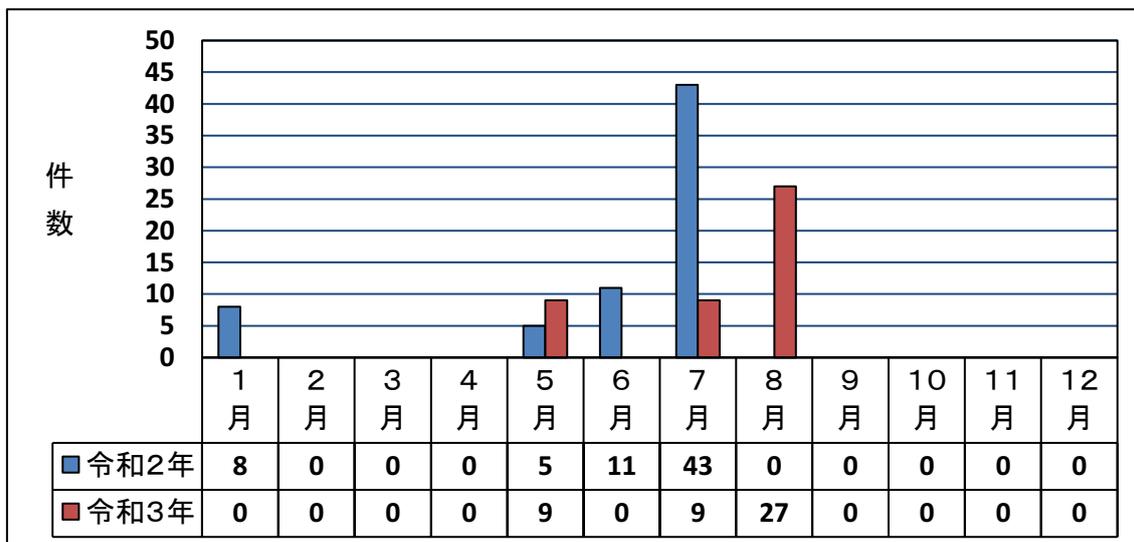
風雨等による災害の出動状況は、表－13のとおり46件（前年67件）出動し、前年より21件減少しています。

表－13 【防災出動件数】

区 分		令和3年 (A)	令和2年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
風水害	出 動 件 数	1	24	△ 23
	出 動 台 数	1	30	△ 29
	出 動 人 員	4	104	△ 100
警戒巡視	出 動 件 数	45	43	2
	出 動 台 数	45	44	1
	出 動 人 員	169	163	6
合計	出 動 件 数	46	67	△ 21
	出 動 台 数	46	74	△ 28
	出 動 人 員	173	267	△ 94

※ 警戒巡視とは、災害警戒本部または災害対策本部が設置されており、かつ、時間雨量又は連続雨量が規定値を超えた場合に、市内の水害危険予想箇所等の巡視を行うことをいう。風水害とは、風雨等に伴う出動で、警戒巡視以外の出動のことをいう。

表－14 【月別防災出動件数】



II 救急の概要

1 救急事故種別出動状況

令和3年中の救急出動件数は10,960件で、前年より188件増加しました。1日平均30.0件の割合で救急出動したことになります。事故種別では、急病、一般負傷、交通事故が全体の89.6%を占め、特に急病は64.9%を占めています。

表-1 【前年との対比】

区 分	令 和 3 年 A	令 和 2 年 B	増 減 A - B = C
出 場 件 数	10,960	10,772	188
傷 病 者 搬 送 件 数	9,869	9,784	85
不 搬 送 件 数	1,091	988	103
火 災	17	14	3
自 然 災 害	1	0	1
水 難	4	3	1
交 通	597	566	31
労 働 災 害	75	63	12
運 動 競 技	37	29	8
一 般 負 傷	2,114	2,105	9
加 害	27	40	△ 13
自 損 行 為	105	101	4
急 病	7,111	6,897	214
転 院 搬 送	715	799	△ 84
医 師 搬 送	7	4	3
医 療 資 器 材	1	0	1
そ の 他	149	151	△ 2
1 日 平 均	30.0	29.4	0.6
覚 知 ~ 現 場 到 着	8分 42秒	7分46秒	56秒
覚 知 ~ 病 院 到 着	39分 25秒	35分39秒	3分46秒

※ △は減少を示す。

2 傷病程度別搬送状況

令和3年中の病院への搬送人員は9,910人で、前年の9,831人に比べ、79人増加しました。また、市民22.7人に1人が救急車で運ばれたこととなります。

事故種別では、搬送人員が多い順で、急病(6,470人)、一般負傷(1,956人)、交通(558人)の順となっています。傷病程度別では、死亡、重症、中等症の傷病者の割合は52.9%、入院の必要なしと診断された軽症の傷病者は4,671人で47.1%を占めています。

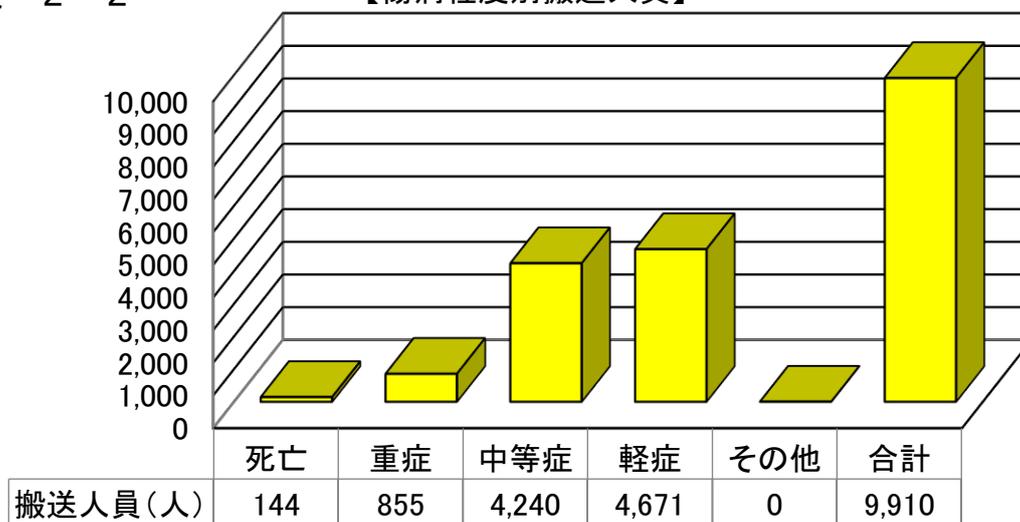
表-2-1 【前年との対比】

区 分	令 和 3 年 A	令 和 2 年 B	増 減 A - B = C	傷 病 程 度					合 計
				死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	そ の 他	
搬送人員	9,910	9,831	79	144	855	4,240	4,671	0	9,910
火 災	9	4	5	0	2	3	4	0	9
自然災害	1	0	1	0	0	1	0	0	1
水 難	0	1	△ (1)	0	0	0	0	0	0
交 通	558	538	20	1	28	98	431	0	558
労働災害	73	61	12	0	9	23	41	0	73
運動競技	37	29	8	0	0	10	27	0	37
一般負傷	1,956	1,980	△ (24)	11	196	560	1,189	0	1,956
加 害	20	33	△ (13)	0	0	2	18	0	20
自損行為	71	66	5	12	12	30	17	0	71
急 病	6,470	6,321	149	118	485	2,996	2,871	0	6,470
そ の 他	715	798	△ (83)	2	123	517	73	0	715

※ △は減少を示す。

表-2-2

【傷病程度別搬送人員】



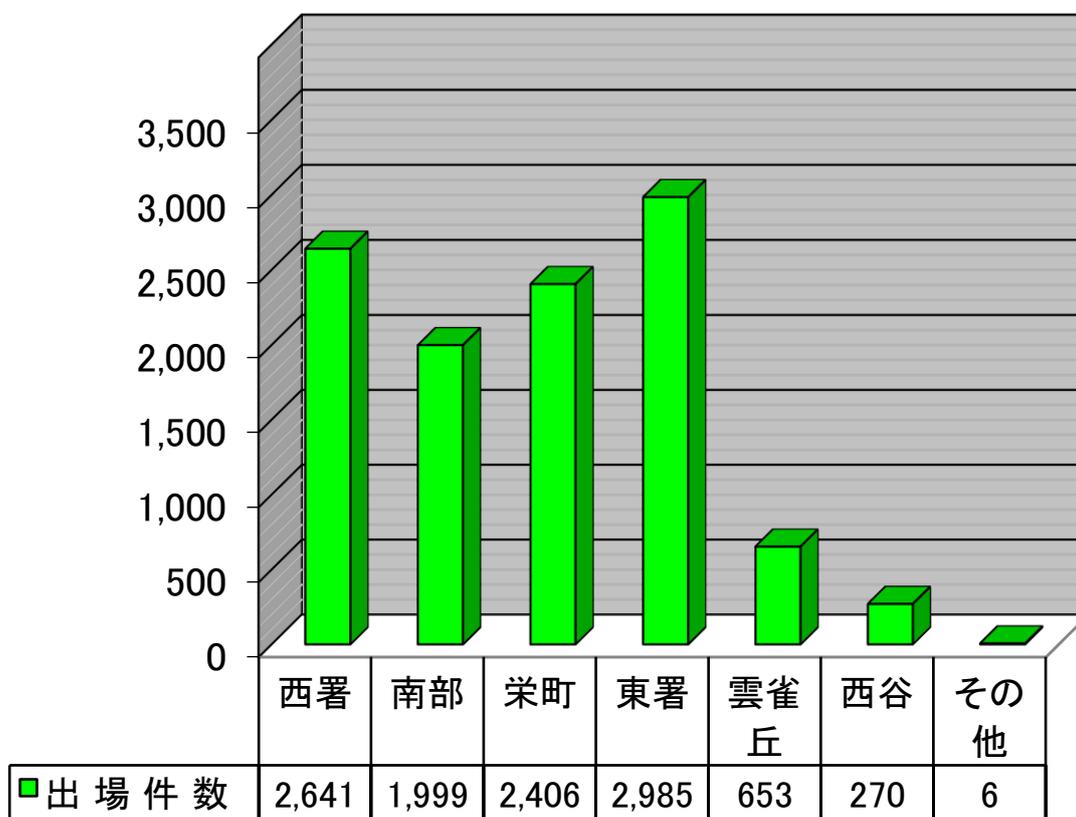
3 署所別出動状況

総出動件数10,960件のうち、西消防署（南部出張所、栄町出張所含む）が7,046件（64.3%）、東消防署（雲雀丘出張所、西谷出張所含む）が3,908件（35.7%）、その他（非常用編成）が6件出動しています。

表-3-1 【署所別出動件数1】

区 分	合 計	西 消 防 署				東 消 防 署				そ の 他 小 計
		小 計	本 署	南 部 出 張 所	栄 町 出 張 所	小 計	本 署	雲 雀 丘 出 張 所	西 谷 出 張 所	
出 場 件 数 (件)	10,960	7,046	2,641	1,999	2,406	3,908	2,985	653	270	6
構 成 比 (%)	100.0	64.3	24.1	18.2	22.0	35.7	27.2	6.0	2.5	0.1
1 日 平 均 (件)	30.0	19.3	7.2	5.5	6.6	10.7	8.2	1.8	0.7	0.0
1 カ 月 平 均 (件)	913.3	587.2	220.1	166.6	200.5	325.7	248.8	54.4	22.5	0.5

表-3-2 【署所別出動件数2】



4 医療機関別搬送状況

搬送状況を収容医療機関別に区分すると、搬送人員の94.8%を占める9,399人が救急告示病院に搬送され、511人がその他の医療機関に搬送されました。

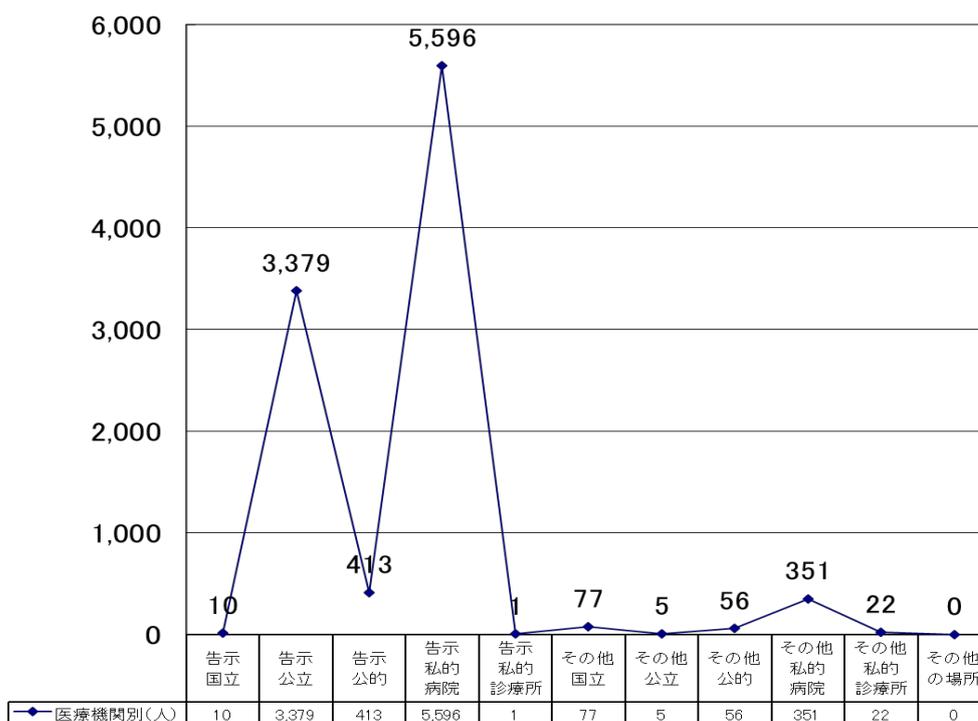
また、市内の救急告示病院への搬送人員は6,752人で全体の68.1%を占め、その他の医療機関を含めると6,775人となり市内へは68.4%が搬送されたこととなります。

※ その他の場所は、診療のため接骨院へ搬送及び医療機関へ収容目的でヘリポートへ搬送した場合などをいうが該当はなし。

表－4－1 【医療機関別搬送状況1】

区分	救急告示医療機関						その他の医療機関						その他の場所	合計 (人)
	国立	公立	公的	私的		計	国立	公立	公的	私的		計		
				病院	診療所					病院	診療所			
市内	0	2,286	0	4,466	0	6,752	0	0	0	4	19	23	0	6,775
市外	10	1,093	413	1,130	1	2,647	77	5	56	347	3	488	0	3,135
合計	10	3,379	413	5,596	1	9,399	77	5	56	351	22	511	0	9,910

表－4－2 【医療機関別搬送状況2】



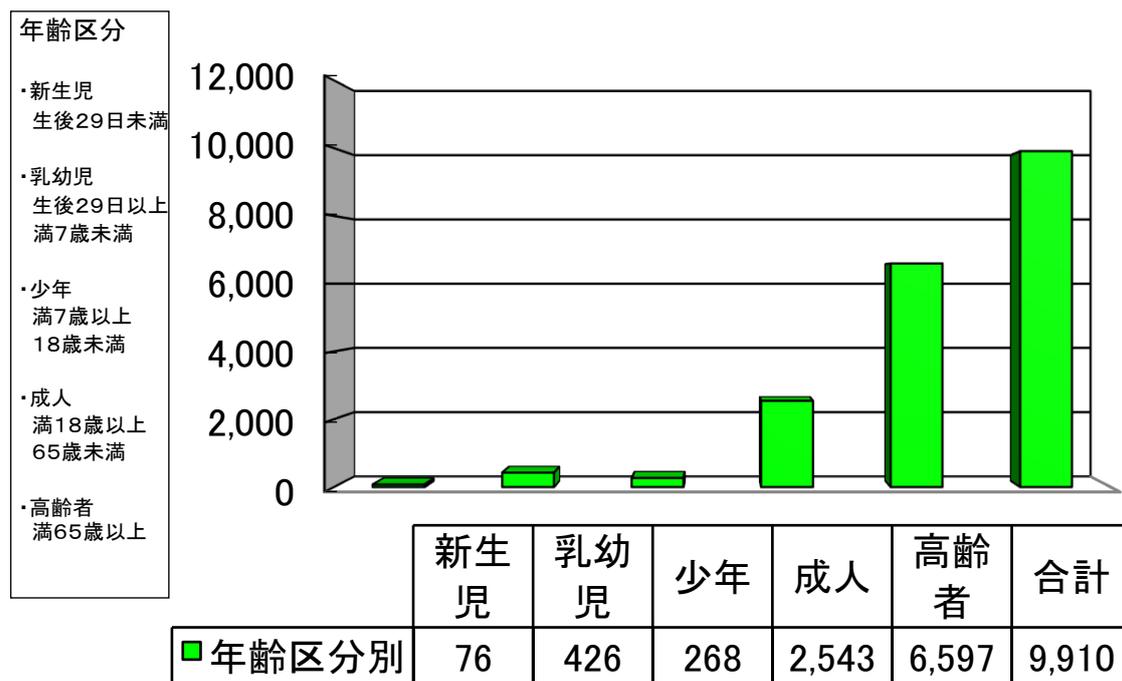
5 年齢区分別搬送状況

搬送状況を年齢区分別にみると、新生児が76人(0.8%)、乳幼児が426人(4.3%)、少年が268人(2.7%)、成人が2,543人(25.7%)、高齢者が6,597人(66.6%)となっています。高齢者の搬送割合が高く、高齢者の急病は、4,472人で、高齢者全体の搬送のうち67.8%を占めます。また、高齢者の一般負傷についても他の年齢区分から比較すると高い値となっています。

表-5-1 【年齢区分別搬送状況1】

区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	74	76
乳幼児	0	0	0	17	0	0	148	0	0	248	13	426
少年	0	0	0	42	0	24	64	3	6	119	10	268
成人	5	0	0	347	54	9	233	10	57	1,629	199	2,543
高齢者	4	1	0	152	19	4	1,511	7	8	4,472	419	6,597
合計	9	1	0	558	73	37	1,956	20	71	6,470	715	9,910

表-5-2 【年齢区分別搬送状況2】



6 月別・曜日別出動状況

月別出動件数は、8月が1,000件を超えています。

表-6-1 【月別出動件数】

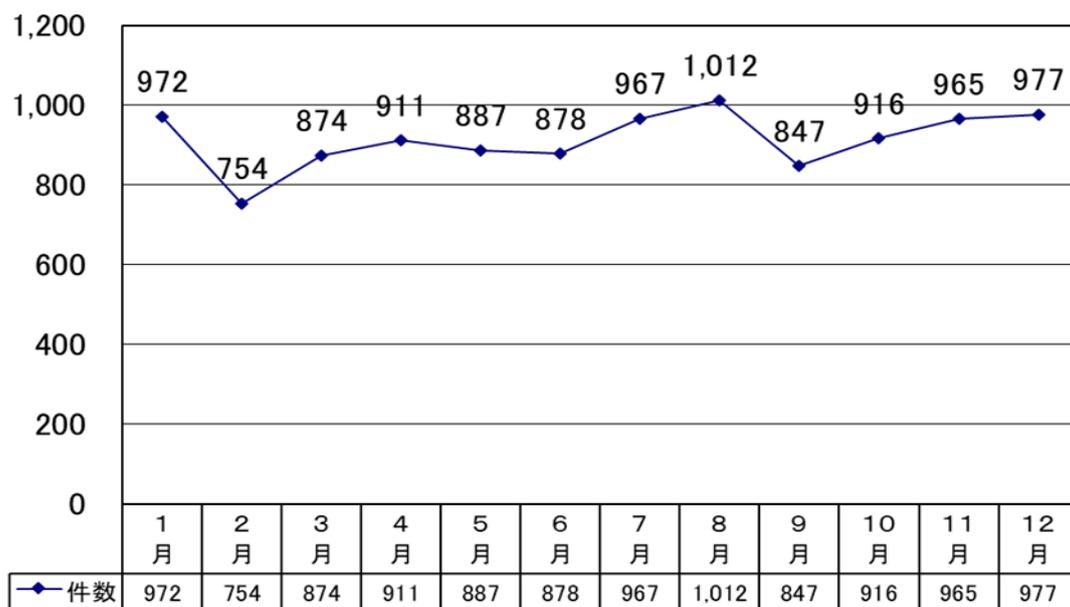
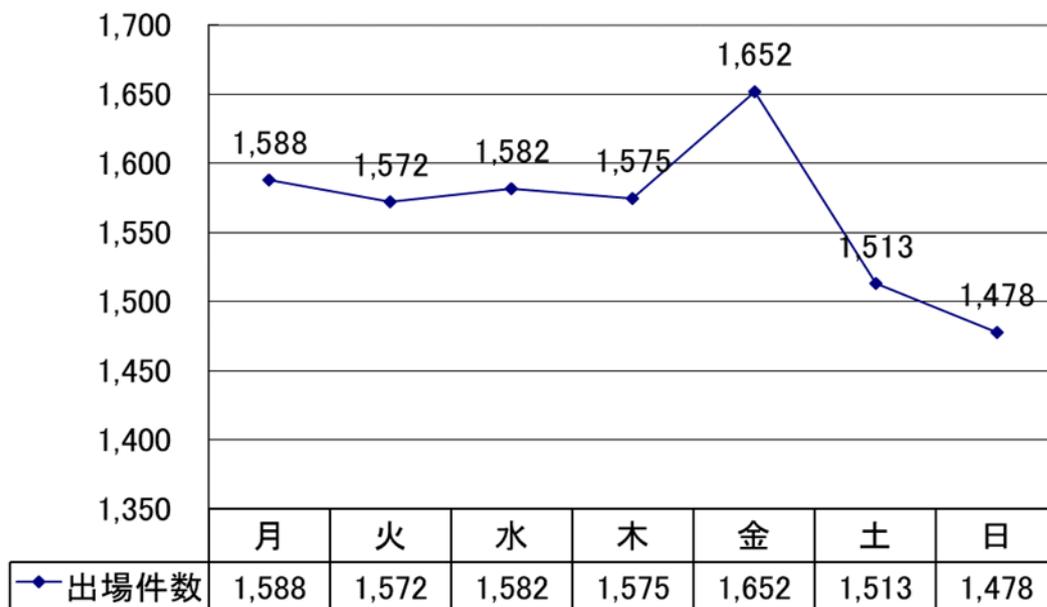


表-6-2 【曜日別出動件数】

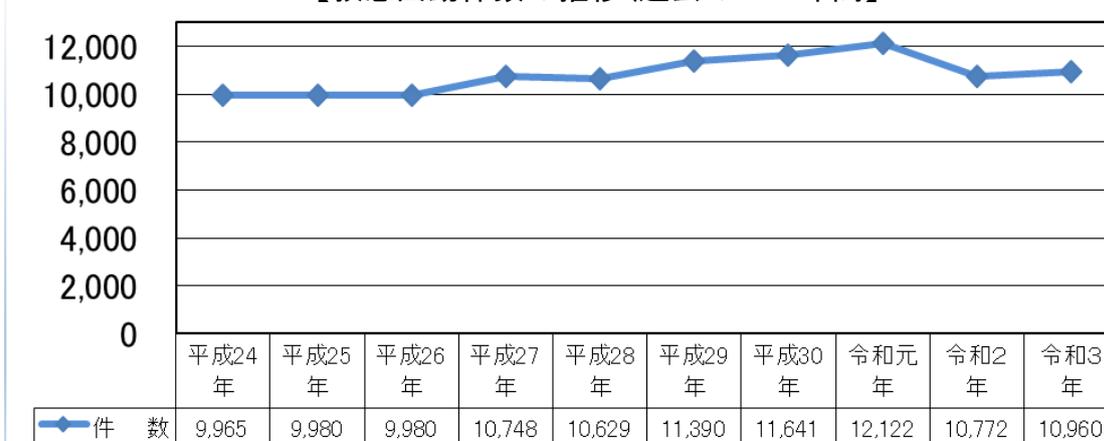


7 救急出動件数の推移

過去10年間の推移をみると、平成24年から26年まで、9,000件台後半で推移していましたが、平成27年からは10,000件を超え、平成29年、平成30年は11,000件台で推移し、令和元年は12,000件を超えました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の発生以来、救急出動件数は減少傾向となり、令和2年、令和3年は11,000件を下回っています。

表-7-1 【救急出動件数の推移(過去の10年間)】



救急出動件数の多くを占める、急病、交通事故、一般負傷の過去10年の推移は、下表-7-2のとおりです。

表-7-2 【急病・交通事故・一般負傷の出動件数(過去10年間)】

区分	急病	交通事故	一般負傷	その他
平成24年	6,265	822	1,789	1,089
平成25年	6,369	779	1,686	1,146
平成26年	6,319	765	1,749	1,147
平成27年	6,775	817	1,974	1,182
平成28年	6,829	755	1,891	1,154
平成29年	7,196	823	2,077	1,294
平成30年	7,420	772	2,137	1,312
令和元年	7,805	695	2,287	1,335
令和2年	6,897	566	2,105	1,204
令和3年	7,111	597	2,114	1,138

※ その他とは、火災、労働災害、運動競技、加害、自損行為、転院搬送及びその他の出動件数を示す。

Ⅲ 救助の概要

1 救助事故種別出動状況

令和3年中の救助出動件数は229件で、前年に比べ9件増加しました。救助活動件数は195件で前年より14件増加し、救助人員は147名で6名増加しました。

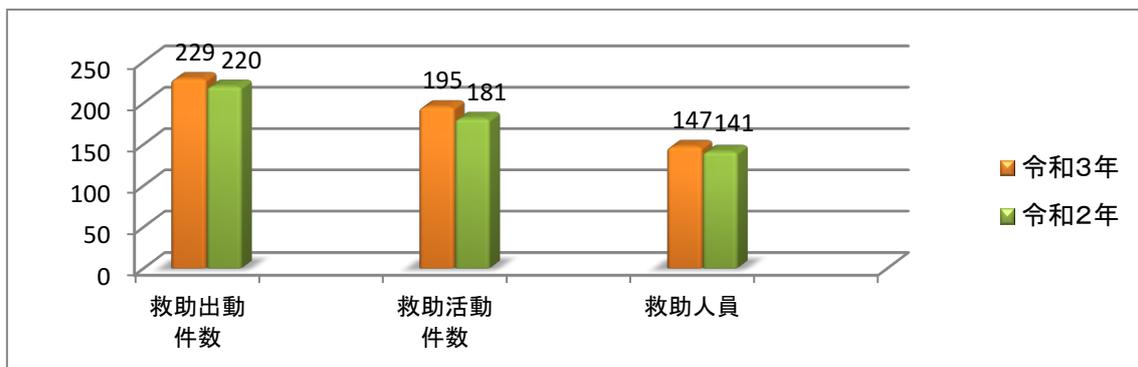
事故種別ごとの救助出動件数をみると、風水害等自然災害、ガス及び酸欠事故、破裂事故の発生はなく、建物等の事故が多く発生しています。

表-1-1 【前年との対比】

区分	令和3年	令和2年	増減	
	(A)	(B)	(A)-(B)=(C)	
救助出動件数	229	220	9	
救助活動件数	195	181	14	
救助人員	147	141	6	
出動人員	救助隊専任	1676	1613	63
	救助隊兼任	43	71	-28
	消防隊	1204	1046	158
	救急隊	658	658	0
火災	建物	4	3	1
	建物外	0	0	0
交通事故	21	20	1	
水難事故	3	1	2	
風水害等自然災害	0	0	0	
機械による事故	1	5	-4	
建物等による事故	104	96	8	
ガス及び酸欠事故	0	0	0	
破裂事故	0	0	0	
その他の事故	96	95	1	

※ △は減少を示す。

表-1-2 【救助出動件数・救助活動件数及び救助人員】



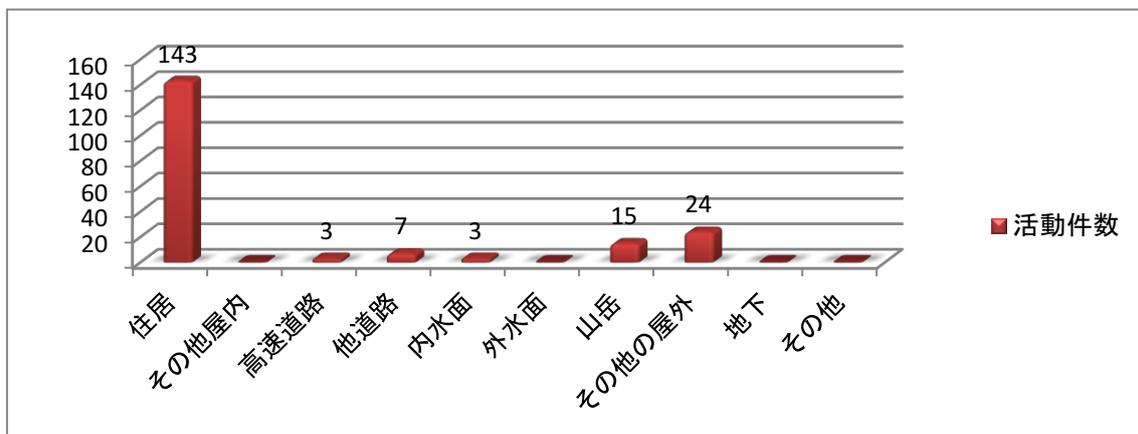
2 発生場所別活動件数・救助人員状況

救助活動件数は195件で前年より14件増加し、救助人員は147名で6名増加しました。

表-2-1 【発生場所別活動件数・救助人員】

区 分		活動件数	屋 内		屋 外						地下	その他
			住居	その他屋内	道 路		水 面		山 岳	その他の屋外		
					高速道路	他道路	内水面	外水面				
		救助人員										
火 災	建 物	4	4									
	建 物 以 外	2	2									
交 通 事 故		14			3	6					5	
		14			3	6					5	
水 難 事 故		3						3				
		4						4				
自 然 災 害												
機 械 に よ る 事 故												
建 物 等 に よ る 事 故		97	91								6	
		94	88								6	
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故												
破 裂 事 故												
そ の 他		77	48			1				15	13	
		33	4			1				16	12	
合 計		195	143		3	7	3		15	24		
		147	94		3	7	4		16	23		

表-2-2 【発生場所別活動件数】



3 建物内生存者確認による出動状況

建物内生存者確認による出動状況は、令和3年中の救助出動229件の内、建物内生存者確認による出動は103件で、45%を占めています。

表-3-1 【建物内生存者確認による月別出動件数1】

事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
要救助者有	7	2	3	4	1	10	2	5	2	1	3	5	45
その他の事故(外出・入院等)	9	7	2	2	5	6	4	7	4	3	1	8	58
合計	16	9	5	6	6	16	6	12	6	4	4	13	103

※ 誤報とは、建物内における生存者確認のために出動したが、外出、入院等で不在の場合や、在宅中であり、呼び出しに対し出てくる場合及び睡眠中、いたずら等をいう。

表-3-2 【建物内生存者確認による月別出動件数2】

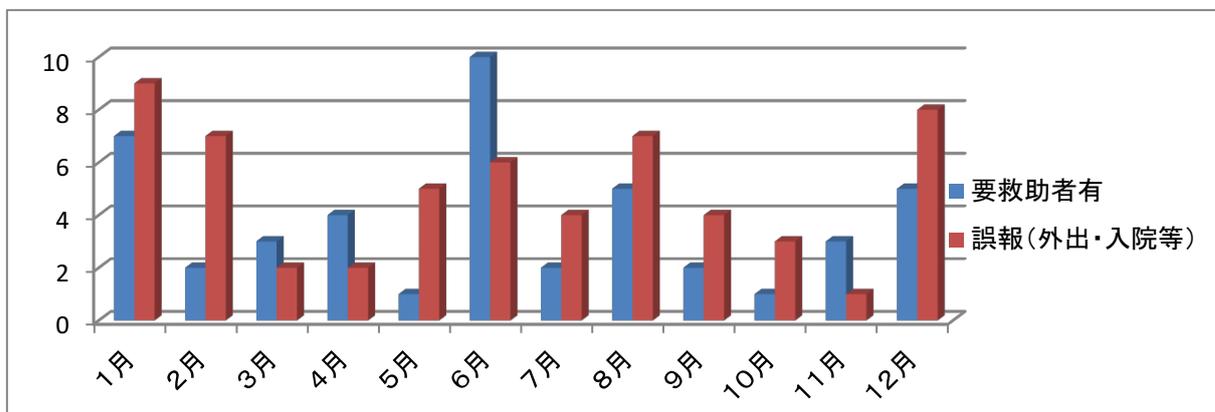
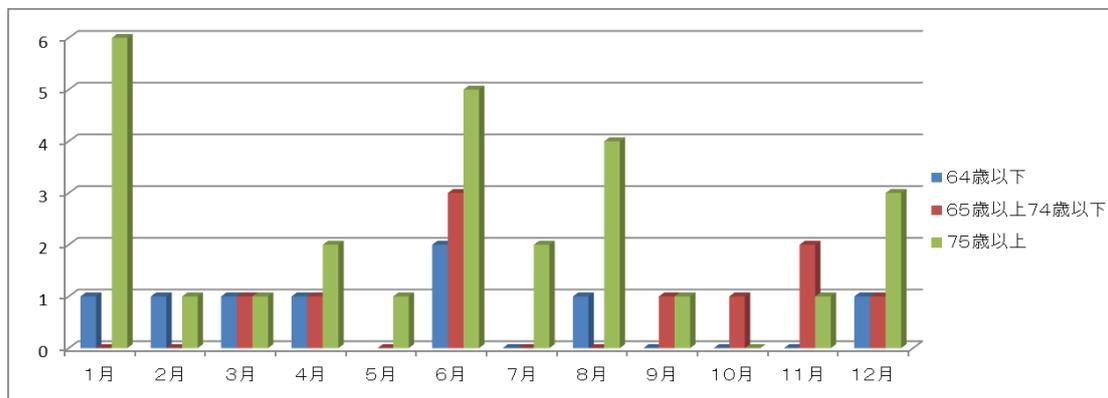


表-3-3 【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の人数1】

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下	1	2	1	1	1	1	2		2	2			13
高齢者(65歳以上74歳以下)	3	1	1			1		2		1	1		10
後期高齢者(75歳以上)	4		3	2	4	1		3	1	1	4	6	29
合計	8	3	5	3	5	3	2	5	3	4	5	6	52

※ 建物内生存者確認（誤報は除く）による出動の内、高齢者及び後期高齢者が占める割合は全体の60%である。

表－３－４ 【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の人数２】



表－３－５ 【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の死亡者数】

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下		2		1	1		2			1			7
高齢者(65歳以上74歳以下)	2	1	1			1		2					7
後期高齢者(75歳以上)	1		2	1	1	1		1		1	3	2	13
合計	3	3	3	2	2	2	2	3	0	2	3	2	27

※ 建物内生存者確認（誤報は除く）による出動に係る死亡者数の内、高齢者及び後期高齢者が占める割合は全体の74%である。



宝塚市消防本部